

東京都初記録・稀な記録の鳥たち — 8

(写真は裏表紙に掲載)

稀な記録 カツオドリ *Sula leucogaster*

3年近く前の記録ですが、カツオドリ1羽が葛西海浜公園で観察されました。鳥嶼部の伊豆諸島、小笠原諸島では繁殖し、周辺海域で普通に観察できますが、東京都の本土部では初記録と思われます。

観察場所：江戸川区臨海町 葛西海浜公園

観察期間・発見者：2013年12月から2014年1月まで、当地で観察されていましたが、発見者・初認日・終認日は確認できていません。参考になる情報がありましたら当会まで、お知らせください。

観察状況：葛西海浜公園東なぎさの南側突端のテトラポット上で、カワウと共に休む様子が観察されていました。場所や角度によっては全身が見えないことも多く、観察は困難でした。時々、海へ飛び立つ様子も観察されていたようです。

解説：遠距離であったため望遠鏡を使用しても、羽色などの詳細の観察はできませんでしたが、2014年1月12日に比較的至近距離に飛来した様子を撮影できました。写真がやや不鮮明ですが、嘴基部に青色味があり、腹部の一部が白く見えるようなので、成鳥雄と思われます。(野鳥記録委員 鈴木弘行)

稀な記録 ハクガン *Anser caerulescens*

本種は1900年代初頭頃まで東京湾岸にかなり多数が渡来していましたが、その後は激減しました。千葉県行徳で1957～1958年に1羽の越冬記録がありますが、東京都内ではおよそ百年ぶりの記録です。

観察場所：足立区千住大川町 荒川河川敷など

観察期間・発見者：2015年10月中旬頃～2016年4月6日頃、発見者については詳細不明です。

観察状況：ハクガン3羽は10月中旬頃から地元の方々により観察されていましたが、希少種のハクガンとは認識されていなかったようです。10月26日に観察した方が足立区荒川ビジターセンターに連絡し、10月29日付けで同センターのウェブサイトにも渡来情報が公開されました。その後は観察に訪れた多くの人々に見守られながら越冬し、半年近く経った4月6日頃に渡去したものと思われます。

解説：ハクガンは3羽ともに当年生まれの幼鳥で、10月に渡来の頃は体が灰褐色を帯びて嘴は黒色でしたが、4月に渡去の頃は体がほぼ白色に換羽し嘴は桃色に変わりかけていました。同一群と思われるハクガン3羽を、11月9日に根本貴久氏が江戸川区北小岩付近の江戸川で、また2月21日・3月13日・4月3日に三間久豊氏らが江東区中央防波堤埋立地で記録しています。日中は荒川河川敷でシロツメクサなどの植物を採餌し、夜間は東京湾岸の埋立地で休息する日周行動をしていたものと推測されます。なお、渡来時には5羽いたという説も一部にあるようですが、今のところ確証はありません。

(野鳥記録委員 大塚 豊)

稀な記録 ヒメクイナ *Porzana pusilla*

大田区羽田(1918年)、八丈島(1922年・1928年・1931年)、北硫黄島(1927年)、硫黄島(1937年)、三宅島(1962年)、稲城市多摩川(1971年)の古い記録がありますが、東京都では久々の記録となります。

観察場所：江戸川区臨海町 葛西臨海公園 鳥類園

観察期間・発見者：2015年10月25日～11月10日頃・中村 篤氏

観察状況：10月25日はバードウォッチングセンター前の上の池(淡水池)で、多くの皆さんがヒメクイナを狙って待っておられました。私は同僚とともに10m位先のヨシゴイを撮影していたところ、突然足下の2～3m先に小さなウズラの様な1羽の鳥が現れたので、夢中でシャッターを切りました。見たこと

もない姿の鳥で、そばにいた方々に撮影した写真を見せて尋ねたのですが、どなたもわかりませんでした。「山階鳥類研究所に問い合わせでは」と勧められたので、写真を送った次第です。(中村 篤)

解説: このヒメクイナの記録は、山階鳥類研究所の平岡 考氏から当会に11月6日にご連絡いただいたものです。発見者の中村 篤氏に観察状況をお尋ねするとともに、撮影した写真を提供いただきました。

(野鳥記録委員 大塚 豊)

稀な記録 ムジセッカ *Phylloscopus fuscatus*

東京都内では国立市(2004年)、板橋区 荒川河川敷(2007年)、台東区 上野動物園(2012年)の記録があります。また、今季は渡良瀬遊水地でも越冬個体が観察されています。

観察場所: 江戸川区臨海町 葛西臨海公園 鳥類園

観察期間・発見者: 2015年12月26日(初認)~2016年5月2日(終認)・川原 章氏、川原光子氏

観察状況: 初認日に観察センター北東側のアシ原で、ウグイスに混じってムジセッカと思われる地鳴きが聞かれました。しかし明確に視認できず、判別に役立つ写真も得られませんでした。年が明けた1月3日に同所でムジセッカ1羽を確認して撮影もできました。その後は多くの方々によって、観察や撮影されました。この間にいただいた地鳴きや目撃の記録によれば、汽水池西側と淡水池のアシ原周辺の比較的広い範囲を越冬場所としていたようです。4月16日には観察センター南側の藪周辺で地鳴きとさえずりが聞かれ、数人の方と観察もできました。それ以降はしばらく確認されませんでした。5月2日に葛西臨海水族園・船着場付近で同一と思われる個体の目撃記録が得られ、これが終認と思われます。

(川原 章)

稀な記録 オオホシハジロ *Aythya valisineria*

東京都内では台東区上野 不忍池(1990年)、大田区南六郷 多摩川、江戸川区 葛西臨海公園(2002~2003年・2004年)で、いずれも1個体が記録されています。

観察場所: 板橋区/北区 浮間公園

観察期間・発見者: 当地で2015年12月に観察されていますが、その後に姿を消し、同一個体と思われる本種が埼玉県彩湖に現れました。2016年2月22日には彩湖から再び当地に戻り、3月後半まで滞在しました。最初の発見者・初認日は不明ですが、終認日は私たちが得た情報によれば3月24日です。

観察状況: 本個体はホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、ヒドリガモ、オナガガモなどの群れの中において、水面で休息していることが多く、たまに羽繕いなどする様子が観察されました。

解説: 多くのホシハジロの中にいましたので、識別に有効なホシハジロとの比較が容易でした。体の大きさ、嘴の形状と色、腹部に幼羽がないことなどからオオホシハジロ成鳥の雌と同定できます。

(野鳥記録委員 三間久豊)

稀な記録 ヘラサギ *Platalea leucorodia*

本種は東京都内では稀で、葛西海浜公園では2002年と2011年に1羽が記録されています。行徳野鳥観察舎周辺で2015年10月下旬から12月まで観察されていた個体が、移動してきた可能性が高いです。

観察場所: 江戸川区臨海町 葛西海浜公園

観察期間・発見者: 本個体は、多くのバーダーにより観察撮影され、ネットへの掲載も多く、それらの情報から初認は2016年1月23日、終認は2016年5月7日と思われます。発見者については不明です。

観察状況: クロツラヘラサギ1羽もほぼ同時期(2015年12月12日~2016年5月5日)に観察され、2羽が行動を共にする様子が観察されました。東なぎさと西なぎさを行き来しながら、干潮時は干潟で餌を探し、満潮時は東なぎさ突端のテトラポット上で休んでいました。本個体は飛翔時に、風切り羽の先に黒色が見られたので、若鳥と判断されます。

(野鳥記録委員 鈴木弘行)